



サロン・デ・メール 2025 に出展

クレアパリ事務所 所長補佐 田淵 祥久 (岡山県備前市派遣)

サロン・デ・メール開催

2025年11月18日(火)から20日(木)までの3日間、パリ市南西部にあるポルト・ド・ヴェルサイユ見本市会場にてサロン・デ・メール (Salon des Maires et des Collectivités Locales) が開催されました。



出展パビリオンの外観



にぎわう会場内の様子

人が来場し、前年に比べて 8.4%の増加を記録しました。また、出展者数は 1,380、講演回数は 448 回にのびりました。フランスでは 2026 年 3 月に統一地方選挙を控えていることから、例年以上に地方選出議員やその関係者が積極的に参加し、今回の盛況につながったものとみられます。

サロン・デ・メールとは

サロン・デ・メールは、毎年 11 月に開催されるフランスの全国市長会 (Association des Maires de France (AMF)) の総会に併せて開催される見本市です。フランス各地の自治体の首長や事務総長などが訪れるほか、時には閣僚や首相も来場する大規模なイベントとなっています。そのため、自治体と関連する企業による商品・サービスの PR や、非営利団体の出展など、多数の出展者がブースを構えていました。これらのブースは 4 つのパビリオン内でテーマごとに分けられており、いずれのパビリオンも多くの方の来場者でにぎわっていました。

主催者の発表によると、今年は 3 日間で 6 万 5,672

クレアパリの出展

クレアパリは 2002 年からサロン・デ・メールに出展しています。フランス各地の自治体の首長をはじめとする自治体関係者と直に接することで、フランスの自治体とコミュニケーションを深める重要な機会として、継続的に取り組んできました。フランスの民間企業も多く出展するこの見本市で、フランス国外の自治体関係者が出展することは珍しく、クレアの活動に関心を示す来場者が多く見受けられました。また、今回のサロン・デ・メールへの出展をきっかけにクレアを初めて知ったという声も聞かれました。

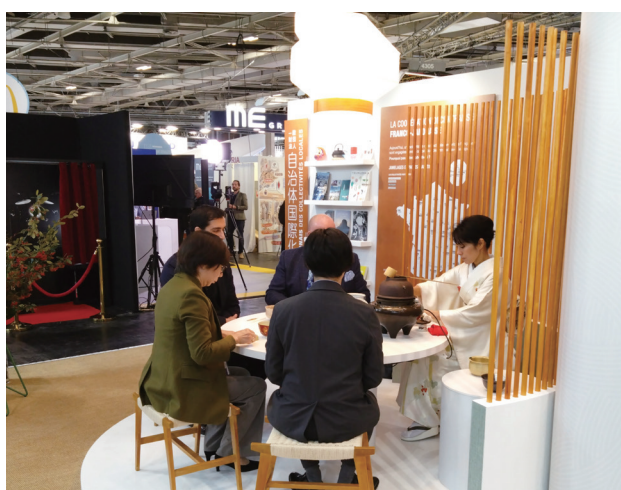


クレアブース

クレアパリのブースの特徴

昨年同様、クレアパリのブースは白と木を基調とした和を感じられる空間とし、その点でも来場者の目を引くものとなりました。さらに、他のブースと大きく異なる特徴として、ブース中央に茶席を設けていることが挙げられます。これはフランス各地から訪れる首長や自治体関係者と、和やかな雰囲気の中で円滑なコミュニケーションを図ることを目的としたもので、抹茶と和菓子によるおもてなしを行いました。席についた人々は、お点前を興味深そうに眺めながら会話に花を咲かせていました。フランスでの抹茶人気の高まりもあり、こうした取り組みは多くの人から好評を得ました。

また、今回クレアは AMF ブースの対面にブースを構えていたことも功を奏し、多くの来場者に足を運んでいただくことができました。AMF ブースにはオランド前大統領が立ち寄る場面もあり、周囲はたいへんなにぎわいを見せていました。



茶席での情報交換の様子



来場者と交流する所長補佐

来場者との交流

今回の出展では、姉妹都市連携に関する意見交換に加え、日本からの団体訪問の受け入れや、クレアパリとの連携の可能性について検討するなど、今後日本の自治体との交流を希望するフランスの自治体関係者と幅広い情報交換を行うことができました。

また、自治体関係者以外の来場者や他の出展者がブースに関心を持って訪れる場面もあり、そうした人々に対してはパンフレットを活用し、日本の自治体の観光 PR を行いました。

サロン・デ・メールを終えて

既に日本の自治体と関係性を有するフランスの自治体との意見交換に加え、将来的な新たなつながりを生み出す可能性を秘めたサロン・デ・メールは、クレアパリにとって、フランスの自治体のニーズや日仏交流の事例など幅広い情報を収集できる貴重な機会となっています。

今後のさらなる日仏交流の発展に向け、次回のサロン・デ・メールでも多くの来場者にお会いできることを楽しみにしています。



パンフレットによる自治体 PR